

土・まち・みどり

通信第72号

2018. 8. 22

発行 NPO法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118(事務局)

CONTENTS ◆総会・ミニ園遊会レポート ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて
◆フラワーアレンジメント鑑賞めぐり報告 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

総会・ミニ園遊会レポート

2018年5月13日に、土とみどりを守る会の年次総会と、ミニ園遊会をシェア奥沢で開きました。年次総会では、まず、前年度の活動報告と、会計報告がなされ、了承されました。引き続き、今年度の活動予定と予算が提示され、了承されました。

今年度の活動予定としては、定例のつどいの開催、ニュースレターの発行、まち歩きの実施などに加え、奥沢ガーデンタウン構想（奥沢ガーデンシティ構想改め）という前年度に提案されたアイデアの実現に向けた準備を行うことを説明しました。

特別ゲストとして、世田谷区都市整備政策部都市デザイン課の、一坪さんと水野さんにご参加いただきました。一坪さんから、今年度は奥沢1丁目～3丁目を対象に、「かいわい形成地区」の指定に向けた取り組みを実施する旨の説明がありました。その具体としては、広く奥沢の住民に参加を呼びかけ、ワークショップやまち歩きなどのイベントを開催して、取り組みの内容に理解を深めるための活動を実施するとのことでした。



奥沢ガーデンタウン構想について

「かいわい形成地区」の指定に向け、昨年度開催されたワークショップのひとつのテーブルで出たアイデアです。

奥沢は、公園が少ないのに「みどりが豊かだ」と言われます。それは、宅地内のみどりが通りから見え、みどり豊かな街並みを形成しているからです。残念ながら、家の建て替えにより、

高木が少なくなっていく、あるいは樹木の維持管理が大変だという理由もあります。そこで、みどりの所有者の負担を少しでも減らすように地域として維持していくようなしくみづくりも大事だと考えます。このみどり豊かな景観を守り、新しいみどりを育てていくことで、次世代に継承していくことを提案いたします。

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「“石標づくり“での古老達の話」

奥沢三丁目 大橋 茂弘(玉川石標保存会副会長)

1984年玉川地域で73団体参加の玉川地域団体連絡協議会が設立され、地域をもっと知って歩いて探す、石標づくりに着手しようと20年かけて、玉川地域に173か所の石標を設置しました。奥沢地域では、交和会、中和会、各商店会、各種団体からの募金で約400万円集まり、九品仏コース30本、奥沢では17本の石標が完成しました。

その際、各団体の役員、高齢者の集まりのなかで、懐かしい思い出話しがが数多く語られました。

○新奥沢駅跡～昭和3年ごろ、池上線の雪が谷駅から国分寺までの新しい線路を作る計画が利用者が少なく、中止になり、“その電車運行中、手を上げると乗車できる”“車中は野菜で一杯”

○奥沢本村由来碑～奥沢は、昔は、本村と新田村に分かれていて、奥沢本村は旗本領で、新田村は天領であった。明治に入ると奥沢は、品川県に属して、明治22年東京府荏原郡玉川村字奥沢と呼ぶようになっています。

○諏訪山遺跡～1965年から3丁目37番あたりから3500年前(縄文中期)遺跡が見つかり、1982年世田谷遺跡調査会が5次にわたり、次々と縄文土器が現れていました。=写真は火炎土器、現在東京国立博物館所蔵に展示している国宝と同型=この土器は世田谷郷土資料館に展示している=



奥沢3丁目辺りは、竪穴住居跡が、いくつも発見され、古代人が暮らしていて、火葬墓も発見されている。

○奥沢駅に狐～目蒲線が出来た頃、奥沢駅に一人立っている姿があり、当時の1車両で駅に着くと、それが狐、逃げに行ったと言う話。

○奥沢埋蔵金～奥沢1丁目23あたりのはなし 奥沢に軍用金の埋蔵金があると、語り継がれているので、人夫を数人雇って畑を数日掘り返したが、素焼きの破片が出ただけでした。

「奥沢駅前噴水広場」

奥沢四丁目 竹内 稔

私は35年前脱サラをして念願だった自分のお店を持ちたくて探している時、知人から目蒲線の奥沢に空き店舗があると聞かれ(今の目黒線です)世田谷区内で家から遠くないところと思っていたので、自由通りを行けば直ぐだと聞いて、自由が丘を通り過ぎその先が奥沢でした。ここは世田谷区内だと初めて知りました。駅前には小さな広場がありその真ん中に石で囲まれた噴水が白い水を噴き上げて、その周りに3本の大きなケヤキが噴水を囲み、ベンチでは本を読んでいる人や子供におやつを食べさせている人が居て、その広場をL字に囲むように道路があり、商店が何軒か並んでいる所のビル2階にテナント募集の文字が！私は駅前と言うことで迷いもなく決めてしまったように思います。

9月には奥沢神社の世田谷無形民俗文化財に指定された大蛇祭りが有り、御神輿が6基駅前に集まり奥沢神社まで宮入が行われ、その時は駅前広場にお神輿を見る人でいっぱいになります。

又、噴水ひろばのけけヤキに夕方になると何処からともなくスズメが集まって来て暗くなるまで鳴いています。スズメのお宿になっている時期もあるようです。ある時年配のお客さんに駅前広場は世田谷百景の100番目だと聞かされ、この噴水の形について話してくれた事があります。この噴水は母という字をイメージして作られているのだと言っていました。それは石組で四角に作られ真ん中を横に仕切られ、その仕切られた両側に水が噴き出しています。言われてみれば母の字のように見えます。

今は広場の周りは高いビルが出来、昔に比べるとマンションも多くなり、人口も増え、その横を大勢の人たちが行き交う駅前広場になっています。

平成に入って噴水の周りも整備され【ふんすい広場】と名前が付き休憩場所になっています。

私は駅前を見ながら奮闘している毎日です。

奥沢の歴史を訪ねて XX

奥沢史跡巡り⑤ まちなか観光東地区コース(v)

(私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。)

今回も前回の続きで、東玉川(旧名諏訪分、大平分家領)から奥沢1丁目に戻る。

町境の都道から直ぐ大音寺の墓地がある。入口直ぐ左に立派な奥沢本村由来碑が建っている。文書として正確な記述が残っているわけではないが、辿り着いた一族二十数家が奥沢地域でまとまって初めて集落を作ったので、各家には代々詳しく伝承されている。この辺りには本村以前にも人が住んでいた跡が残っている。子安稲荷公園(旧子安稲荷、本村・小字稲荷山の守り神)、大音寺(旗本渡辺家)等本村関係の史跡は既に紹介済みなのでここでは簡単に触れておく。



(本村の墓地)

子安公園の少し北道路沿いに大六天社が鎮座している。この地に移住した和田一族の一人甲府方家が昭和15年以來お守りしている(子安稲荷→奥沢神社→甲府方家)。そのすぐ裏は急峻な崖になっている。ここは呑川の崖線で、低地に出る前



(大六天社)

をふさぐ奥沢台地(荏原台地)を左右侵食してできたものである。その崖線上に連なるのが横穴墳で、2体の骨が見つかったが、和田家が近くに埋め直し供養している。崖の下に和田家の碑が建っている。横穴墳の時代は新しく多分奈良・平安時代のものとみられている。

一区画北側の角には愛宕塚の石碑のみが建っている。この辺りでは一番高く昔愛宕山と呼ばれ、古墳があった。骨も見つかったらしいが、



(横穴墳)

今となっては確かめようがなく、伝承のみが残る。

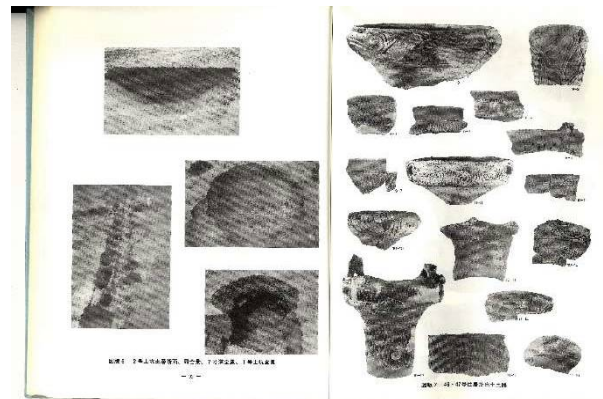
しかし、この先元弁天池や田園調布台(八幡小学校～環八の崖)湧水等から合流しながら流れてくる奥沢流れの対岸には、環濠を擁する諏訪山遺跡があり、縄文時代に人々が暮らしていたことが分かる。愛宕山から奥沢駅に向かつては、田園都市会社の調布の街づくりを真似して、耕地整

理時に造成された放射状道路を挟んで戦前からの落ち着いた住宅街が続いている。

この辺りは土地に余裕があり、庭づくりにも工夫が見られる。世田谷区デザイン課の「奥沢の風景を守り育てるプロジェクト」の会合【次回公開ワークショップは9月22日(土)、だれでも参加自由】では、この放射状の道を中心に、道路を見ることが出来る開かれた庭づくりを広めようという考え方も提案されている。今年の街歩きは街並み見学と史跡巡りを融合して9月24日(月曜日)に実施する予定である。

崖線上から東の呑川方向を見ると、対岸の大岡山(石川台)が見え、呑川の手前に奥沢中学校から大音寺迄伸びる細長い台地がある。この辺りもいろいろ伝承が残されている。大音寺辺りにも縄文の散在遺があるので、人が住んでいたと思われる。

更に北へ進むと奥沢流れに浸食された低地になる。この流域は和田一族が定住した時水田を作った地域だが、生産量は江戸時代でも20石ほどであったらしい。途中左手に奥沢台地の下り坂が見えるが、その辺りが諏訪山遺跡(縄文時代)になる。現在もビル建設時には必ず発掘調査が実施される。確か27次程度になる。



(諏訪山遺跡)

踏切を渡ってすぐ右側は少し小高い山になっている(角は駐車場で削られている)が、戦後暫くはコンクリート製の比較的大きい防空壕があり、たまに入って遊んだことがある。大蛇通りの緑ヶ丘側の突き当りに昔Kタイル店があったが、そのそばの踏切近くには2か所の入口をもつ巨大な防空壕があった。いつも水が数十cm溜まっていたので、さすがに怖くて覗き込むだけで入れなかった。私知っている多人数用の防空壕はこの2か所だけである。

今回は2丁目海軍村と奥沢神社について触れる。

フラワーアレンジメント鑑賞めぐり報告

今回は講習会初めての屋外での活動となり、6月9日(土)、横浜山手西洋館7館で開催中のフラワーアレンジメントを19名で鑑賞しました。「花と器のハーモニー」をテーマに各アーティストのさまざまな手法、花材、器等でその場の雰囲気と相まったアレンジメントを観ることが出来ました。山手234番館では榎KTION、川崎景太先生がコーディネートされた作品の詳細な説明を受け、植物の特異性も教えて頂きました。ご協力頂いたアンケートからは全館通して規模の大きな作品よりも生活の場に活かすことが出来るような窓辺や洗面所などのアレンジメントに興味をお持ちの方が多かったようです。全館を巡るには歩行を含め4時間余り、暑さの中皆さんのご負担を懸念していましたが、ほとんどの方がとても健脚でお元気でした。但しやはり数名の方にはきつかったようです。嬉しいおまけは田原先生の大いなるご尽力で8袋の花の種やポストカードをゲット、多彩な鑑賞めぐりとなりました。蒔いた種からすでに芽が出たとのこと報告もいただきました。後日のお疲れを気にしつつ無事のゴールに安堵、皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(マミフラワーデザインスクール講師 佐藤暁美)

※参加された関根さんから下記のご感想を頂きました：
「当日は6月としては気温が高かった為、当初各館の散策を楽しめるかと心配しました。幸い街路樹等緑の多い道が多かったこともあり7館巡りを満喫出来ました。各館のフラワーアレンジメントは西洋館の雰囲気に合った素敵な作品ばかりでした。随所に絶妙なバランスの作品があり目の保養をさせていただきました。なお先生を含め主催者の方々には事前準備等いろいろとお世話になり感謝いたします。とても優雅な半日を過ごさせていただきました。」



活動報告

- 世田谷区主催の風景づくり交流会 (H30年度第1回) が、6月30日にキャロットタワー生活工房セミナールーム (三軒茶屋) にて行われ、当会より3名が出席しました。そこでは地域風景資産クイズラリー2018の実施報告や、ゲストの「まちなか歩き人：野口英男さん」より報告があり、活発な質疑や意見交換などが行われました。
- 都市デザイン課主催のワークショップ (第1回) を9月22日に実施するために、当会と交和会によるコア会議が行われています。これからは地域とも連携し、緑と花いっぱいの町づくりにも貢献して行きたいと思います。

会からのお知らせ

- 今年の「まち歩き」は、久しぶりに奥沢の町を歩きます。そこには今まで気が付かなかった豊かな緑や、歴史の面影が息づいています。詳しくはチラシをご覧ください。
- 第22回の奥沢文化祭が、10月20・21日に開催されます。当会からも20周年の歴史を刻むパネルなどを出展する予定です。どうか文化祭にもお越しを願います。
- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ御協力をお願い致します。入会のお問い合わせやご連絡などは、右の欄にあります会の連絡先各位までどうぞ。

編集後記

この夏の異常な暑さ、皆様はいかがお過ごしでしょうか。猛暑で蚊も飛べないほどですが、草や木は意外なほど元気。お花も水やりに応えて、懸命に咲いています。もう少しの我慢で、涼しくて実り豊かな秋がやってくる…そう信じて、皆様もますますお元気で過ごしを願います。(中村)

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢2-32-11 堀内正弘 5701-5901
世田谷区奥沢2-11-8 中村 修 3718-2549
世田谷区奥沢2-41-2 玉置 敬子 3724-1077
ホームページ: <http://tsuchimidori.net>
e-mail: info@tsuchimidori.net